

令和2年度 神戸市学校給食委員会 議事要旨

- 1 開催日時 令和3年3月10日(水)10時30分～11時55分
- 2 開催場所 神戸市教育委員会事務局 教育委員会会議室
- 3 出席者 西村委員長、植村委員、小林委員、熊谷委員、古場委員、池田校長(宮本委員代理)、山本委員、柳田委員、田中委員、本條委員、竹森委員、古田委員
※長谷川事務局長(冒頭挨拶)
- 4 議 事
 - (1) 令和2年度の学校給食の実施について
 - (2) 給食費の公会計化について
 - (3) 中学校給食について
 - (4) 今後の中学校給食について

【冒 頭】

○長谷川事務局長

- ・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で市立学校園の一斉臨時休業というスタートから始まり、二度の緊急事態宣言が発令されるなど異例尽くめの一年だった。教育委員会としても、子どもたちの安全を第一に考え、各学校園と連携し試行錯誤しながら新型コロナ対応に力を入れて取り組んでおり、学校給食に関しても衛生管理に十分配慮しながら提供に努めてきた。
- ・学校給食は教育活動の一環であり、子どもたちの心身の発達を支える大変重要な役割を担っている。学校給食の充実に向けてこれからも力を注いでいきたい。
- ・中学校給食は現在デリバリーランチボックス方式で提供しているが、温かい給食で全員喫食に移行できないかと考えており、大きな変革に向けたスタートを切ろうとしている。
- ・令和3年度予算案に全員喫食制に向けた調査費の予算を計上しており、現在議会で審議中であるが、議会からも前向きかつスピーディーに進めてほしいとの意見をいただいている。
- ・全員喫食に向けて乗り越えなければならない課題は山積しているが、温かい中学校給食に関しては、子どもたちはもちろん保護者の願いも非常に強いと考えている。中学校給食が新たなステージに向かう大きな節目の時期となる。委員の皆様には積極的なご意見をいただきたい。

●委員長

- ・今年度は新型コロナウイルス感染症のために本当に大変な状況を過ごした。特に学校の先生方は一斉臨時休業という大変な状態の中で学校を再開し、足りない授業時間をどう埋め合わせていくかなど、子どもたちのために色々と工夫して取り組まれたことと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症は需要側にも供給側にも同じように棄損を与え、またグローバルにもローカルにも棄損を与えるという極めて大きなネガティブ効果を持っている。そして一番怖いのは直接的に人の命に関わるような属性を持っていることである。
- ・先行きが見えない状況ではあるが、神戸商工会議所のアンケートでは、約3割の企業がこの状況をチャンスと考え、チャレンジできると捉えられているというデータもある。

- ・冒頭の事務局長の想いを共有化していただき、なんとか子どもたちによりよい食育の機会を与えられるような施策を皆さんと考えながら、教育委員会にお願いをしていくことが肝要と考えている。限られた時間ではあるが、ぜひ前向きに知恵を出していただき協力いただきたい。

【議事要旨】

(1) 令和2年度の学校給食の実施について

(2) 給食費の公会計化について

(事務局より資料3・資料4について説明)

●委員長

- ・神戸ビーフの給食について、子どもたちの反応はどうだったのか先生方の意見を伺いたい。

●委員

- ・子どもたちは神戸ビーフの給食の日を待ち望んでいたようで大変好評だった。また、今年度は6月から給食が開始されたが、最初は簡易給食だったのが3月になり、どんどんメニューがグレードアップし、豪華になってきているという印象を子どもたちは受けている。
- ・兵庫県産食材の提供やデザート回数も増えている。試食会では保護者も給食はおいしいということで、レシピ本を参考に家庭で給食の献立を作ることもあるようである。
- ・コロナの影響でソーシャルディスタンス、喫食中はしゃべることができない、おかわりのルールも一回戻したものは入れないなど、ルールも厳しくなっている。いつになったら皆でわいわい言いながら給食を食べられるのかと思っている状況である。

●委員

- ・神戸ビーフが出るということで自分も楽しみにしており、神戸牛のプルコギをいただいたが、おいしかった。子どもたちもおいしく食べていたと思う。

●委員長

- ・子どもたちだけではなく先生方も大切な給食と一緒に食べていただく方である。先生方からも好評いただけるのであれば、事務局としても実施して良かったということだと思う。

●委員

- ・地域でこども食堂を運営しているが、この度フードロス対策ということで、教育委員会から食材をたくさん引き取らせていただいた。お米や保存食品などを多くいただき、学校の休校中はお弁当配布という形で応援させていただいた。また、フードパントリーということで来られる方に一緒にお渡しさせていただいたが、非常に喜んでいただいた。教育委員会から送付いただいた食品送付と、その対象にならなかった方が主に配布対象になったが、すごく喜んでいただくことができたので、この場をお借りしてお礼申し上げたい。

●委員長

- ・公会計化は先生方の業務負担の軽減や透明性向上などの目的がある。個人情報の観点もある。ただ、現実的に言うと現場で先生方が事情を分かった上でアプローチすることは必要であり、ある程度は許されると思うが、こういう時代でもあるので、できるだけ個人情報には直接触らないという方向性で公会計化という議論が出てきたのだろうと思う。
- ・事務局に説明をお願いしたいが、札幌市と相模原市が公会計化の予定なしとなっているのは、財政的な事情なのか、体制が整っていないからなのか、分かれば教えていただきたい。

○事務局

- ・政令指定都市で公会計化しない理由としては予算の問題が多い。システムの導入に多くの費用が必要になること、導入後も保守運営や債権管理にかかるコストが必要となるため、相応の予算措置が必要になる。また、政令指定都市は合併などの経緯もあり、合併前の市町で学校給食のあり方がそもそも違う場合もある。そういうところが現時点で公会計化が難しいという回答になっているのだろうと考えている。

●委員長

- ・様々な事情が各地域であるということ踏まえ、神戸市としては公会計化に向けて検討したいということである。ご意見やご感想があれば伺いたい。

●委員

- ・給食費の未払いについて実際の割合は分からないが、学校で先生が払ってくださいというのは苦痛であり、それが解消されるのが一番望ましい。

●委員長

- ・先生方はやはり本来の業務でもなく、未納の徴収は負荷がかかる。ルーティン化が重要だと思うが、一方で、個別事情もある。払いたくても払えないというような場合に払ってもらわないと困るというような言い方をしているのか、教育や食育に関わる部分でいうと少し考える必要もあるのではないか。他都市での工夫も参考に対応方法はよく検討していく必要がある。

●委員

- ・就学援助や生活保護その他の児童生徒で給食費の取扱いが異なる。また、学校にはボランティアなど支援員、非常勤など色々な方もいる。できるだけ学校に負担がないような形で食数管理ができることが望ましいが、入院した児童への返金作業など、現在の対応における良い部分も残しながら公会計化の検討を進めていただきたい。

●委員長

- ・実際の現場では様々なことが起こっている。先生方が現場で感じたことは事務局に伝えていただきたい。委員会の場でも現状をお知らせいただくと事務局も対応を考えるとと思う。

(1) 中学校給食について

(2) 今後の中学校給食について

(事務局より資料5・資料6について説明)

●委員長

- ・説明内容について、ご意見やご感想があれば伺いたい。

●委員

- ・モデル実施では、隣接している小学校で調理した給食を中学校に配送してもらい、子どもたちが配膳室まで取りに行き教室で配膳するという方法だった。食器への盛付なども小学校の時の経験からスムーズに対応しており、特に1年生は手際よく配膳していた。
- ・また、温かい給食はとてもいい匂いがする。匂いで食欲がそそられるというのが本当にあると思った。やはり現在のランチボックスだと、10度以下というルールがあるため、冷たいという意見があるが、子どもたちは温かい給食を本当に喜んでいて、また、教員もおいしくいただくことができた。

- ・自校調理方式、親子調理方式、給食センター方式、民間デリバリー方式（食缶）の4つの方式が考えられるが、学校の物理的条件や立地条件などを考えると採用できる方式はある程度絞られてくるのではないかと。
- ・中学校では昼休み時間が非常に限られており、唯一子どもたちがグラウンドで遊んだり、図書室で読書したりする自由時間である。各授業の間の時間は移動時間であって休み時間ではない。昼食時間の短縮は避けるべきだと思う。
- ・今のランチボックス方式では喫食率がなかなか上がっていなかった。地域によっても給食に対する考え方は様々あるし、色々なことが懸念されるが、中学生の体の育成や保護者の負担軽減、栄養面の確保などを考えると、やはり学校給食は必要であり、全員喫食の方向性が望ましい。

●委員長

- ・視点を变えて行政側の意見も伺いたい。

●委員

- ・中学生給食は現在40%の利用率であり、全員喫食となれば調達する食材の量も増えるが、食材調達の業務としては支障はない。小中学校で同一の献立になるのか、今のように別になるのか分からないが、スケールメリットが働くことがあっても、デメリットはないと考えている。
- ・学校給食法第2条第3号で学校給食の目標として「学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと」と規定されている。その趣旨からも全員喫食の方が望ましいと思う。

●委員

- ・今のランチボックス方式の給食も十分おいしいと思っているが、一部食缶方式や親子調理方式のモデル実施の際の子どもたちが喜んでくれている様子を見てみると、やはり子どもたちにより喜んでもらえる形で給食を提供していくことが望ましいと考えている。
- ・実施方式については今後検討していく必要があるが、いずれの方式を採用するとしても数年程度は必要になると思う。それまでの間の対応として、全てのおかずを温かい状態で提供するのには難しいが、週何日かだけでも一部食缶方式による温かい給食の提供に取り組みたい。
- ・学校現場には色々のご負担いただく必要があり、調整も必要になってくると思うが、ご協力いただきながら子どもたちに喜んでもらえるような給食を提供していきたいと考えている。

●委員長

- ・概ね方向性として了解いただいていると思う。その他に感想や意見があれば伺いたい。

●委員

- ・中学校給食はおかずが冷たいということで喫食率がなかなか上がらなかった。それから事務局は本当に努力をされて、温かい給食のモデル実施を行い、アンケート結果でもすごくおいしかったという評判、あるいは全員喫食に賛成という生徒の意見も多かったとのことだった。
- ・これだけ数値が上がっている状況をお聞きしてびっくりしている。ここまで理解や共感を得ているということを教えていただき、事務局の努力に敬意を表したいと思う。
- ・時間がかかるという話もあったが、今後、課題を解決しながら、全員喫食の方向で進めていくことが望ましいと考えている。

●委員

- ・中学校給食が始まる時に6年生で試食する機会があったが、確におかずは冷たいと感じた。おかずを冷やしているの、どうしても子どもたちは冷たいというイメージがある。

- ・今年も6年生と一緒に中学校給食を食べたが、私は今の給食もおいしいと思っているので、子どもたちとはそういった話もしながら、また中学校給食は給食費が半額になっているので、どんどん保護者の方の負担もなくなるのではという話もしていた。おかげで冷たいというところも改善いただき、全員喫食の方向で進めていただければと思う。

●委員

- ・主食・主菜・副菜をそろえて食べる人の割合を増やそうというのが日本の目標だが、大人でもできている人は非常に少なく、若い世代は体調不良になることもあまりないので危機感がとても薄れている。
- ・若い世代が次世代を築いていくことを考えると、少しでも長い間給食を食べることができる環境にあることは昼食もしっかり食べないといけないという意識付けにもつながり、食育の観点からも重要だと思う。
- ・神戸市のこれからの取り組みに期待したいと考えており、全員喫食の実現が望ましいと思う。

●委員

- ・今年度のコロナの状況の中で、神戸ビーフの給食の提供は素晴らしいことだと思う。希望として申し上げたいが、今後状況が変わってもこういった取り組みは継続して実施できればと思う。
- ・学校給食は栄養面、食育、安全性の三本立てだと思うが、特に安全性は無視できないものであり、大前提として確保すべきである。
- ・小学生と中学生の食育は考え方を分けてはどうか。特に小学生にとっての食育はしつけの要素があるが、中学生の食育は、食が社会生活の中の一つの部分であるという位置づけを教育する必要もあるのではないか。例えば、コロナで一斉に飲食店を閉めるということは、店の経営の問題、それから雇用状況の悪化にもつながる。そういった社会経済の問題について様々な意見の対立もある。中学生の食育はそういった食を取り巻く社会の状況も教えていただきたい。
- ・そういった意味で、中学生には小学生とは違った視点での食育など、子どもの成長段階に応じた食育が必要ではないか。また、給食時間だけが食育の場ではなく、他の授業時間なども含めて食育に取り組むことが必要だと思う。
- ・中学生は成長期であり、体力など個人差も大きくなる。全ての栄養素で個人差に対応するのは難しいが、最低限カロリーは必要である。お代わりができる提供方法が望ましいと思う。

●委員長

- ・多面的な意見が大事である。中学校になれば、頭で考えて食べるということも必要になってくるかもしれない。

●委員

- ・ランチボックスのリニューアルの効果はどうだったか事務局に伺いたい。

○事務局

- ・新しいランチボックスでは5色のカラーバリエーションを採用した。見た目も可愛く評判が良いと聞いている。また、蓋の部分には、ポートタワーやルミナリエなど神戸のシンボルマークがデザインしてある。そういったことも含めて非常に好評であると考えている。

●委員

- ・中学校給食の導入当初から全員喫食が望ましいと考えていた。中学校給食がない頃は、様々な事情があつて家庭弁当が持参できない場合に、コンビニで菓子パンやお弁当、おにぎりを買っ

て持ってくる生徒も多くいた学校もあった。そう考えると、中学生の時期にこれだけ栄養バランスの摂れた食事をきちんと食べることはとても大事なことだと思う。

- ・温かい方が良いとは思いますが、給食の導入以前のことを考えると、家庭弁当も基本的には冷たいので、ご飯が温かい現在のランチボックスの給食はとてもありがたいと思っている。
- ・子どもたちや保護者のニーズを受けて温かい給食に向けて検討していく中で、全ての中学校が同じ条件で一斉に移行するのは難しいのではないかと考えている。できるだけ早く移行ができるように、いつから全員喫食に移行するのか、目標や方向性を決めて、打ち出したうえで進めていくことが望ましいのではないかと。
- ・アレルギーへの対応も検討していく必要がある。
- ・給食の量の問題から、男女ともに今のランチボックスで全員喫食は難しいと思う。

●委員長

- ・事務局から全体を通して補足説明などがあればいただきたい。

○事務局

- ・中学校給食は色々と課題があると言われる中で、子どもたちや保護者のニーズを考え、温かい給食で全員喫食が答えではないかという思いを持ちながら、これまで工夫に取り組んできた。校長先生方やPTAの皆さんにもご協力いただき、その方向になんとか進んでいくことができ嬉しく思っている。
- ・温かい給食の提供にあたって給食時間の確保は課題である。学校現場と色々と相談しながら、事務局としても案を示していきたい。また、アレルギーの対応であるが、今の給食では全てのおかずが一つのランチボックスに入っているため、1品が食べられない場合、全てのおかずが食べられないことになる。食缶での提供であれば、一つのおかずは食べられないが、もう一つは食べることができるということもできる。アレルギーを持つ生徒にもできるだけ給食を食べていただけるような工夫は考えていきたい。4月以降も継続して議論し、秋頃までに基本方針を示すことができるよう、できるだけスピーディーに進めていきたい。

●委員長

- ・本日は委員の皆さんに多くの意見をいただき、深い議論ができたと思っている。特に今後の中学校給食に関しては、大きな方向性を共有化できた。ただ、実行にあたっては、いくつもの課題がある。時間の問題やアレルギー対応あるいは公平性の問題など様々な制約条件もある。
- ・各委員からはやはり早く温かい給食を食べさせてやりたいという思いが伝わってきた。生徒のアンケート結果でも、90%以上が満足と評価が高い。温かくておいしいものをみんなで食べるということが楽しいだろうと思う。匂いが五感に訴える効果もあり、大事だという意見もあった。実現のためには多方面にバランスをとりながら検討を進めていく必要がある。
- ・事務局から説明があったように秋頃までに大きな方針を決めさせていただきたいと思うので、本日共有化できた方向性に向かって、次回一歩でも進むように議論を進めていきたい。